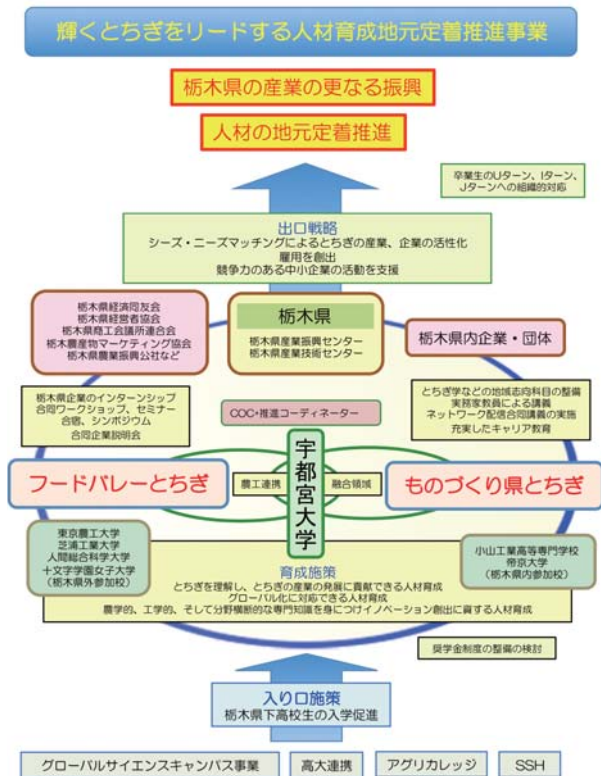


3. COC + への展開

平成27年度より、宇都宮大学COC+（地（知）の拠点大学による地方創生推進事業）に参加して、栃木県との連携を開始した。本学は栃木県からの入学者・就職者が多いという特徴を活かしたUターン・Iターン促進と共に、本学で培ったPBL（Project Based Learning）授業の方法論の栃木県内への応用を図っていく。

宇都宮大学のCOC+事業計画全体像



「輝くとちぎをリードする人材育成地元定着推進事業」は、栃木県における学卒者の地元定着率の向上を、産業振興、雇用創出とともに推進する事業である。このため、栃木県内外の大学、高専、栃木県、経済団体、企業などと連携し、入り口施策（優秀な県内高校生の獲得）、育成施策（人材育成プログラム）、出口戦略（県内就職）からなる人材育成戦略を推進する。

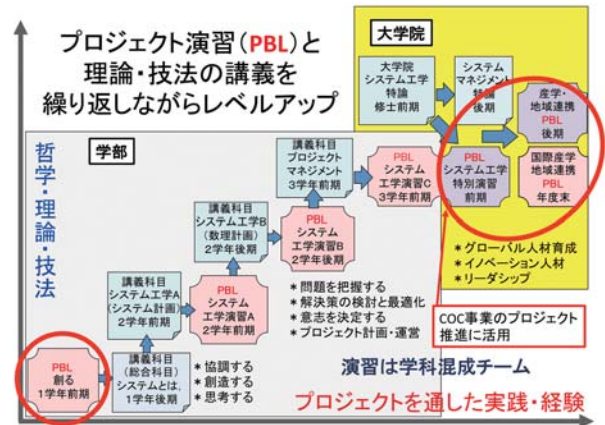
栃木県庁、宇都宮大学への報告

6月10日（金）

1学年前期のPBL授業「創る」において、栃木県の課題を題材として取り上げ、解決案を検討した。その成果を栃木県庁および宇都宮大学に紹介した。



COC活動を支えるPBL授業



本学の持つ工学に関する「知」を、キャンパスが立地する江東区・港区・埼玉県・さいたま市を中心とした「地」に広く役立てるべく、これまで培ってきた研究活動をベースに、「まちづくり」および「ものづくり」の観点から多様なプロジェクトを立ち上げる。

それぞれのプロジェクトにおいて、地域の抱える課題を抽出・分析し、その解決を図るプロセスをPBLとして教育課程に組み込む。PBLを通じて生まれた成果については、「まちづくり」においてはシンポジウムや成果報告会、「ものづくり」においては製品化・事業化という形で地域に還元することを目的とする。

また、同時に地域の若年者・高齢者を対象とした地域連携・人材育成の充実も図る。以上のように、教育・研究・社会貢献（イノベーション）を三位一体で推進することで、同時に大学の建学理念である「社会に学び社会に貢献する実践型技術者の育成」の達成を図る。

宇都宮大学企業交流会への参加

9月12日（月）

交流会に参加された地域の企業、自治体、宇都宮大学の皆様に、学生が地域連携PBL授業の成果を紹介した。交流会参加者数は宇都宮大学内210人、学外191人、合計401人。

